

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275000097		
法人名	有限会社 たすけあい		
事業所名	グループホーム たすけあい		
所在地	千葉県香取市岩部1095-1		
自己評価作成日	平成21年11月7日	評価結果市町村受理日	平成22年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームで菜園を作っており、日々新鮮な野菜を提供しています。利用者様と一緒に野菜を採る事で自ら手を掛けて作ったと思うと食欲もわくようです。多く採れると他の事業所や面会時家族へもおすそ分けをし喜ばれており、それを通じて情報交流も図れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたすけあいは、香取市栗源地区の古墳に隣接し自然に恵まれた環境にある。代表者は「菜園で取れた新鮮な野菜を毎日献立に入れることで利用者に季節感を感じてもらおうこと」「笑顔のあるホーム」「地域の住民や子供達との交流をはかること」等を、大切にしながら明るく温かみのあるホーム運営を行っている。職員の育成には特に力を注いでおり、認知症リーダー研修等期間の長い研修にも職員を積極的に派遣するとともに、管理者が中心になって毎月全職員を対象とした事業所内での研修を計画的に実施している。受講した職員は必ず感想文を提出することにより、内容を確認し日々の介護につなげており、その取り組みは高く評価できる。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年11月26日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念を掲示しつねに意識づけする事や会議等で話し合い実践している。</p>	<p>当ホームでは「利用者を最大限に尊重する」「笑顔のあるグループホーム」等の四つの理念をかかげている。理念を行動につなげる為に5項目の職員心得を定め掲示するとともに、毎月の職員会議や研修時などを通して共有している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>代表者の自宅もありボランティアや散歩でのあいさつ運営会議や地域会議をと通して情報交換等している。</p>	<p>代表者が地区会の古くからのメンバーである為、日常的に近隣の方の協力を得ている。利用者が地区会主催の敬老会に参加したり、ホームのクリスマス会には毎年小学生を多数招いたりよい交流が出来る。また、ホームの季刊誌を地区の住民に配布し、理解を得よう努力している。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>ホームの季刊誌を発行し配布やホームで作った野菜を配ったり行事への参加を促したりしている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>評価報告書配布し会議実施時の意見等を取り組んで話し合いを行い今後のサービスの向上につなげている。</p>	<p>運営推進会議には必ず香取市福祉課の職員を招き民生委員、家族や利用者代表等8～9名で年3回程度実施している。運営状況を報告するとともに医療連携や看取りのこと等、その時々テーマで意見交換を行い運営の参考にしている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域会議や勉強会への参加を積極的に行い意見交換等の中で協力関係を築いている。</p>	<p>市主催のグループホーム連絡会の他に栗源地区主催のケア会議(グループホーム・デイケア・特養・社協などがメンバー)の活動が活発に行われている。法改正の説明会や勉強会等の行事に積極的に参加し、行政や同業者との連携が大変良く出来ている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>研修への参加にて吸収してきたものを他の職員へ伝え話し合いをしながら取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束が必要な利用者はいないが、管理者が県の身体拘束基礎課程の研修に参加し、受講内容を職員にも伝え話し合いながら、精神的にも拘束感のないケアに努めている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修への参加をし他の職員への周知を促し話し合いを行いながら防止に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ事で必要時には活用できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度家族や利用者へ説明し理解・納得して頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会時での家族との会話の中や運営推進委員会を通し職員間での話し合いをし今後の運営に反映させている。	ほとんどの家族の月2回程度の来訪があり、個別に話し合う中で利用者の希望を受け止めて対応するとともに、毎月利用者ごとに1ヶ月の様子を手紙で伝えている。また、運営推進会議での意見等も積極的に取り入れており、アンケートでも全員が「要望にあわせて柔軟な対応をしてくれる」と答えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケアカンファレンスや個別の話し合いを行っている。	意欲的な管理者を中心に、毎月定例の職員会議を実施し職員の意見や提案を取上げ審議している。また、毎月の研修会やケアカンファレンス等の集まりでも意見を出しあって運営に活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に給料体制の見直しや自己評価表、日々の勤務状況を把握し実践に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や内部の勉強会を通し対応している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期での会議の参加や地域での勉強会を通じ情報交換等行い交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や体験を通し本人の意見を良く聞きその方に合わせた環境作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	よく話を聞き、情報収集することで信頼関係を作れるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何度も話し合いを繰り返しその人の必要としていることを見極め出来るように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人一人一人に合わせながらできる事は一緒に行ってもらう様実践している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、行事への参加を促し足を運んで頂ける機会を持つようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や地域の行事への参加を通し実践している。	職員は利用者が以前住んでいた所や、馴染みの商店での買い物や毎月のドライブコースに組み入れたり、行きつけの美容院に同行したりしている。利用者の友人や地域の住民も気軽に訪ねて来ており、大変良い関係の継続が出来ている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員は利用者の状況を把握しかかわりを持つことで支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設での行事の参加のお知らせを通し繋がりを持てるよう努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	よく話を聞き、部屋にはなじみのものを置いたり要望を汲み取れるように努めている。	職員は午後のゆったりした時間に、利用者の居室で話しながら、食べたい物や出かけた所などの意向を把握している。困難な利用者は家族からの情報と昔の話や歌を職員が共にして思いを知るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者一人一人の状況を把握し、面会時にも家族から情報収集したりすることでじっせんしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせながらよく話を聞き精神面での安定を図れる様に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を聞きケアカンファレンスを通し作成している。	職員は利用者の心身の状況や生活環境の情報を家族、主治医等から入手して記録し、カンファレンスの上計画を作成して家族の同意を得ている。評価と見直しは通常3ヶ月ごとに実施しているが、変化がある場合は随時検討し見直している。現在センター方式の導入を試行し利用者本位の介護計画にむすびつけている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のも申し送りやケアカンファレンスを通し情報の共有をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人それぞれ状況にあわせながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加やボランティアを通して支援に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な通院を行いその都度担当医への状況報告等行い支援している。	かかりつけ医の受診は、通常家族が同行するが希望により職員が支援している。協力病院とは、毎月の定期健診やインフルエンザ予防接種、夜間や緊急時の対応等で連携をとっている。又、歯科検診についても毎月、訪問診療を受けており、医療面では安心できる体制にある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護職員の配置にて支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に家族との連絡や病院への訪問を通して情報交換し取り組んでいる。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の状況や家族との話し合いの中で支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の対応についてはホームで出来る限りの対応を行う旨の方針を示し、利用者家族との同意書を交わしている。協力病院との連携を整えとともに職員にはターミナルケアの研修を行い、家族とも相談しながら対応出来るよう心がけている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや研修・勉強会を通して取り組んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施し日ごろの地域との交流のを通し協力体制を築いている。	ホームでは消防署員立会いの避難訓練を年1回、自主の訓練を1回、夜間も想定して行っている。代表者が地元の方であり日頃の地域との交流を通し、災害時には地域住民の協力が得られる体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の状況を把握し記録、声掛けなど自尊心を傷つけないように配慮している。	職員は「利用者の人格を最大限に尊重する」ホームの理念のもとに、プライバシーに配慮した対応を心がけ、職員研修も実施し共有している。居室には必ず一声かけてから入り、トイレや入浴時にも利用者の自尊心を傷つけないよう細やかな気配りをしている。	個人情報保護の方針について、パンフレットやホームへの掲示がないので掲載、掲示をお願いしたい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話しを聞き時には選択肢を与える事で思いを汲み取れるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず本人のペースに合わせ支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望やコミュニケーションを通し支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の状況を把握し要望を聞き出来る事は行って頂けるよう実践している。	食事の献立には、菜園で収穫した新鮮な季節の野菜や果実を取り入れるように心がけ、自家製のジャムを作る等調理方法も手の込んだ工夫をしている。野菜の採取や食事の準備、後片付け等も能力や状態に応じて職員と一緒にいき、食事の楽しみにつなげている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせ必要に応じ代替等もしその人に応じた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状況を把握し定期的な声掛け誘導を行い、自立支援を行っている。	職員は利用者一人ひとりの習慣や行動を把握しトイレに誘導して、日中はオムツを外すようにする等、排泄の自立に向けて努力している。トイレに行きたがらない利用者も上手に誘導し成果を上げている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じ服薬の調整や水分摂取のチェックをし予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間は決まってしまうも本人の状況に合わせて対応している。	入浴は一日おきの午後が基本であるが、利用者の状況に合わせて柔軟に対応している。職員の根気強い対応で、入浴を拒否していた利用者も入るようになった。また、ゆず風呂や入浴剤を使用して入浴が楽しみになるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせ状況を把握し支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を記入し理解する事で状況の変化に対応できるように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や日々の習慣的な役割を持つ事で支援に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々のコミュニケーションの中から要望を引き出し状況に応じて支援している。	利用者の希望に沿ってホーム周辺の散歩や、菜園での野菜採取、広い芝生の庭での日向ぼっこ等、戸外に出るよう支援している。月1～2回程度の近郊ドライブや外食に加え、毎年、家族も交えたバス遠足や、地域の「いも祭り」に参加すること等も利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人おこずかいを預かり買い物等必要に応じ支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望や必要に応じ対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけその都度本人の要望や職員との話し合いの中で居心地の良い環境作りに取り組んでいる。	玄関や居間からは手入れの行き届いた芝生や菜園の野菜、草花が眺めることができる。居間の天井は古民家風の造りで、その天窓からは明るい陽射しが入る。感染症に配慮して空気清浄機、加湿器も設置し、廊下には季節の行事に合わせた作品が飾られる等、居心地よく細やかな工夫が施されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや席の配置を考え居場所作りに取り組んでいる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を持ち込んだり写真や飾り等居心地よく過ごせる様に努力している。	居室には、利用者が使い慣れたベッドや寝具、整理ダンス、一人がけのソファなどが持ち込まれ、居心地よく馴染みの生活が継続できるようにしている。家族が訪問した折に衣類や飾り物の入れ替えもあり、整理されて使い易い生活が出来るようになっていく。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の習慣やその人にとってできる事を常に考え実践していただく事で安定した生活が遅れる様に取り組んでいる。		